

人類の滅亡とその悲劇に立ち向かう人々を描いた、ローランド・エメリッヒ監督「2012」という映画が公開され、大きなヒットを飛ばしているようです。

天体の動きから精密な暦を作り上げたのは古代マヤ民族ですが、そのマヤ暦が2012年で終了していることから、映画をはじめ様々なところで「2012年人類滅亡説」が話題となっています。

映画の内容や噂の真偽はともかく、先の読めぬ時代に生きていくのが私たち人間です。しかし、事前の準備は大切ですが、先のことばかりを心配し過ぎて目の前のやるべきことが曖昧にはなっていないでしょうか。「心配」は「心を配る」と書きます。周囲への心配りは大切ですが、同じ「心を配る」でも暗い方へ心を配ってしまうと、それは「心配性」という悪癖となり、仕事へ向かう意欲の足かせとなってしまうのです。

倫理法人会の経営者モーニングセミナーや研修等で「先手の挨拶をしましょう」と学び、さっそく取り組もうと思っても、挨拶をして相手から無視されたらどうしよう。昨日までやっていなかったのに、急に挨拶などを始めたら変に思われるのではないかと心配性が顔を出して、成長するチャンスを取り逃がしてしまうケースは多いようです。

では、どのような心配が「心配性」となるのか、代表的なものを挙げてみましょう。過去のことを心配する。



## 心配性から脱却し 臆病風を吹き飛ばせ

え・牧えみこ

先々のことを心配する。思い通りにならないことを心配する。己を立てようとして心配する。任せられなくて心配する。病気になるって心配する。根本的なこと(天候気候など)を心配する。経営者にとっては、あたりが特に気をつけるべき項目です。どんなに考えても答えが出ないことや、自分の力ではどうにもならないことをいくら心配しても、状況は好転しないばかりか、今やるべき大切な事柄も見えなくなり事態は悪化していくでしょう。「心配は怠け者の暇つぶし」と言われます。心配性から脱却するには、「よし、やる」と思いついたことを心配性が出てくる前に行動に移し、喜働に徹するのです。あれこれと心配する暇も無いほどに身体を動かすのです。そして、一度始めたことは何があっても成功するまで止めないという強い信念を持って、目の前の一步一步を着実に進んでいくのです。

「この先どうなるのだろう」「この社員に任せて大丈夫か」「体の調子が悪い」「雨が降ったらどうしよう」などとビクビクする不安定な心を捨て去りましょう。そして「我が社は絶対大丈夫」と、逆風にビクともしない揺るぎない「信」を持って今やるべき事に精一杯取り組む。その姿勢が臆病風に振り回されない強い会社を作っていくのです。「信ずれば成り、憂えれば崩れる」です。